

糖尿病性細小血管症の成因

- ①ポリオール経路の亢進
- ②ジアシルグチセロール(diacylglycerol; DAG)-プロテインキナーゼ (proteinkinase; PKC)活性の亢進
- ③ヘキソナミン経路の亢進
- ④酸化ストレスの亢進
- ⑤終末糖化産物(advanced glycation endproducts; AGE)-AGE 受容体(receptor for AGES; RAGE)系の亢進

などにより、過剰に取り込まれたブドウ糖の細胞内代謝異常が細小血管症の発症・進展に重要とされている。

まとめ

- ・糖尿病の死因の第1位は悪性新生物(肺癌、肝臓癌、膵癌の順)、第2位は感染症(殆ど肺炎)、第3位が血管障害(慢性腎不全、虚血性心疾患、脳血管障害)です。悪性新生物が増加し、血管障害は減少している。
- ・平均死亡年齢はここ10年間で3~4歳寿命が延びているが、男性が71.4歳、女性が75.1歳で、日本人平均寿命より、男性で8.2歳、女性で11.2歳、短命。
- ・血糖コントロールの良否と死亡年齢との関連は、不良群は良好群に比べて、1.6歳短命。
腎不全があるとその差は大きくなる。